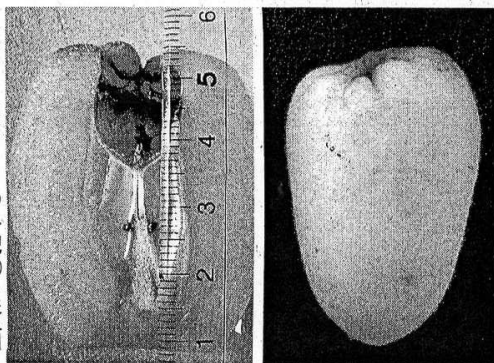


農業技術

プリズム

ビワ「麗月」は、果皮および果肉が黄白色で食味の優れた施設栽培向けの品種ですが、自身の花粉では結実できない自家不和合性であるため、ミツバチな



種なし「麗月」の外観と断面

どによる他のビワ品種との授粉作業が必要です。

しかし、自家不和合性の「種子を作りにくい」特性を生か

種なしビワの栽培が可能か検討しました。

その結果、1回目の処理を満開7日前から満開期にジベレリン2000ppm、ホルクロールフェニユロン20ppmに調整した混合液をハンドスプレーで花房に散布し、2回目の処理を1回目処理の35日後から60日後の間に行うことで種なし果実が生産できました。

ただし、開花期間中に昆虫の飛来などによる他のビワ品種花粉との受粉を防ぐため、摘蕾(てきらい)後の花房へポリプロピレン製の果袋で袋掛けを行う必要があります。

なお、2018年2月14日付でジベレリンとホルクロールフェニユロンは、ビワ「麗月」の着果安定と果実肥大促進を目的とした植物成長調整剤として登録されました(農水省登録番号第6007号)。

(県農林技術開発センタービワ・落葉果樹研究室専門研究員 古賀敬一)

ビワ「麗月」

自家不和合性生かし 種なし果実が可能に

し、既に3倍体ビワで処理方法が確立されている植物成長調整剤を活用して同様の処理を行うことで、ビワ「麗月」を用いた